

## 組織目標評価報告書(2019年度)

6-1

部局名:

医学部医学科

部長名:

浅沼 幹人

目標・取組		目標・取組の実施状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	関連する 年度計画の番 号	教育領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
	1. 入試の実施状況: ①入試倍率3.0~4.0倍 ②多様な入学者選抜の実施と新入学者選抜制度に向けた対応(医学科IR室による入試IR含む) 2. 教育の質保証に関する実施体制: ①新任教員FD、夏のFDを実施する。 ②教育企画委員会を開催し、実際の教育現場の課題を検討する。 ③教務委員会に加え、教育カリキュラム・プログラムの企画立案組織「カリキュラム委員会」、外部委員も含めた評価組織「プログラム評価委員会」、IR組織「医学科IR室」によるPDCAサイクルの実質稼働。 ④教育カリキュラムの企画立案「カリキュラム委員会」、評価組織「プログラム評価委員会」への学生の参画。 3. 教育方法・内容: ①海外大学等との学生交流を拡充し、国際化プログラムを推進する。 ②アクティブラーニング、英語プログラム、大学院教育接続リサーチマインド醸成プログラム(Pre-ART)の継続 4. 教育の成果: ①学生の履修、単位取得状況、厚生補導について、AA制を活用し指導を図る。 ②医師国家試験合格者を全国平均以上に維持する。	1. 入試の実施状況 ①入試倍率は、一般入試(前期日程)=3.8倍(昨年3.4倍)であり、目標を達成している。 ②推薦(地域枠)=8.0倍、国際バカロレア入試=3.0倍、学士編入学=8.0倍で、全て3倍を超えており、多様な入学者選抜を実施している。医学科IR室で入試形態・成績と入学後成績との関連について調査している。 2. 教育の質保証に関する実施体制 ①医学科新任教員FDは2019年5月28日に実施した。「医学科における医学教育の概要等」夏のFDは医学部・歯学部合同FDとして2019年7月5日に実施した。テーマは「講義を面白くしよう!」 ②基礎・社会医学系教育企画委員会及び臨床系教育企画委員会(教育医長会議)を毎月開催し、教育現場の課題について討論した。 ③教務委員会に加え、教育カリキュラム・プログラムの企画立案を行う「カリキュラム委員会」の組織改編を行い、外部委員も含めた評価組織「プログラム評価委員会」を組織した。また、昨年度設置した医学教育企画推進室を「医学科IR室」として教学IR/IEに特化した組織にし、今年度は「学修アウトカムに影響する因子の調査」を行った。これらにより教育のPDCAサイクルの稼働体制を整えた。 ④「カリキュラム委員会」、「プログラム評価委員会」に学生委員を設け、教育への学生の参画を進めた。 ・日本医学教育評価機構が実施する国際基準による医学教育分野別認証評価について受審後の改善報告を経て今年度2019年4月から適合認定を受けた。 3. 教育方法・内容 ①海外大学との学生交流は、派遣35人、受け入れ48人であった。おおむね順調である。 ②「医学セミナー・チュートリアル」「基礎病態演習」「医学研究インターンシップ」などアクティブラーニング、英語プログラムを継続している。リサーチマインド醸成のための学部大学院接続教育として全国に先駆けて導入したPre-ARTプログラム(学部生が大学院科目等履修生として大学院単位取得)と卒後ARTプログラム(初期研修と大学院を並行)は堅調に継続できている。 ・来年度からの医学科・保健学科合同の多職種連携可能プログラム設定の準備を行った。 4. 教育の成果 ①学生の履修、単位取得状況、厚生補導について、AA担任制を活用し、個別面談を推進した。学生生活の諸問題に対応する「厚生補導委員会」を教務委員会から独立して設置し、新たに担任教員に加え学年主任を設けた。 ②第114回医師国家試験合格者は、全体で89.3%(全国平均92.1%)、新卒で93.3%(全国平均94.9%)で全国平均以下であった。
②研究領域	関連する 年度計画の番 号	研究領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
	医歯薬学総合研究科(医学系)に統合	
③社会貢献(診療を含む)領域	関連する 年度計画の番 号	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
	・地域での健康公開講座などを地域の取り組みに合わせて実施する。 ・高大連携事業を積極的に推進する。 ・海外大学との協定、国際交流プログラムを引き続き拡充する。	47② 50① 52②
④管理運営領域	関連する 年度計画の番 号	管理運営領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
	1. 施設環境整備: ①教育研究スペースの不足、狭隘化に対する調査と代替スペース確保に向けた対応を医歯薬学総合研究科とともに行う。 ②医療系大学間共用試験の実施に向けた環境整備 2. コンプライアンス研修の徹底: 3. 管理運営業務の効率化: 会議の時間の短縮およびメール会議等による簡素化により管理運営業務の効率化に努める。	87② 90② 93②